

令和2年10月1日

職員の皆さん

市長 松本太郎

令和3年度予算編成に当たって

本市では、新型コロナウイルス感染症の発生以降、これまで市民の生命と安全・安心な暮らしを守ることを第一に、感染対策と社会経済活動の両立を図るための取組や事業を実施してきました。

しかしながら、未だ終息の行方すら見えないこの感染症の影響は広範で、かつ長期にわたることが予測され、市税収入の減少や経常経費の増加などにより、今後の財政運営をより厳しいものとするのが想定されます。

また、市民が行政に期待することは多様化し、特に新型コロナウイルス感染症の影響により、それは顕著になっています。今後は、市民生活・経済活動のみならず、市政運営においても「ウィズコロナ」、「ポストコロナ」社会における「新たな日常」に適応する必要があります。

私たち行政に携わる者は皆、「市民のために」という普遍的な使命を背負っており、多様化、複雑に変化する行政ニーズに応えるためには、私たち自身が状況に応じて変わり続けることが必要です。

「失敗とは、何も変化しないことである」。このことは、以前にもお伝えしました。現状に満足せず、新しいものに挑戦する廿日市市、成長し続ける廿日市市であるために、私たちは前例にとらわれることなく、変わり続けなければなりません。

アンテナを高く張り、社会経済情勢の変化、行政ニーズの変化を的確に捉え、市民や事業者が何を望み、何を信じたいと思っているのか、常に想像力を働かせ、行政として何をすべきか、何が必要かをしっかり見極め、タイミングを逃さず、スピード感を持って実行に移さなければなりません。

令和3年度の当初予算編成に当たっては、こうした視点を持って取り組んでいただきたいと思います。私たちがこれまでに積み重ねてきた知恵と経験を結集し、スクラムを組み、全職員が一丸となってこの難局に立ち向かっていきましょう。